

1. 調査報告概要表

作成日 平成 20年 7 月15 日

【評価実施概要】

事業所番号	2172101228
法人名	野原電研株式会社
事業所名	グループホーム・柚子
所在地 (電話番号)	〒503-0934 岐阜県大垣市外渕2丁目79番地 (電話) 0584-87-1911
評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会
所在地	岐阜県羽島市竹鼻町狐穴719-1 はしま福祉サポートセンター内
訪問調査日	平成20年6月23日

【情報提供票より】 (平成20年5月23日)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 12 月 17 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤	5 人, 非常勤 4 人, 常勤換算 5.7 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋 造り	
	2 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷金	有 (円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) (240,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	(有) 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	昼食代に含まれる
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(6 月 1 日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83 歳	最低	74 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	山中クリニック
---------	---------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム・柚子は、大通りを少し入ったところにある、明るく開放的な雰囲気を持つ建物のホームである。デイサービスとショートステイが併設されており、それぞれのサービス利用者が足湯やレクリエーションを通じての交流があり、利用者は笑顔で穏やかに暮らしている。職員は利用者を見守り、尊厳を大切に支援しており、利用者は写真や絵、料理など自分の得意なことに生きがいを持って取り組んでいる家族的なホームである。管理者が中心となってケアの向上に前向きに取り組んでいて、それが一つ一つの改善課題の取組みに現れている。申し送り等の記録形式、地域との関係作りでは確かな成果があり、今後は職員の研修、重度化への対応、災害時の地域を巻き込んだ取組みにより更なるケアの向上に繋がることが期待できるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善課題については職員全員で取組んだ結果、全てに前進している。理念は具体的なものとして確認することができた。地域とのつながりも運営推進会議の活用が大きな成果に繋がった。家族への報告は担当者を決めての取組みで「ホーム便り」が作成され、家族の一層の安心感をもたしている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価の改善計画は主任、副主任を中心に職員全員で取り組んだ。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議のメンバーは非常に協力的である。また市の担当窓口には運営推進会議の進め方や地域密着型サービスの取組み方など具体的な相談をし、アドバイスを受けていて気楽に相談できる関係もできている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月家族に請求書とともに必要に応じて利用者の生活の様子を報告している。家族からは直接、要望や意見をもらっている。第三者苦情窓口については書面でも伝えてある。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>3ヶ月毎の発行の「ホーム便り」を作成し、地域に配布している。また、公民館の作品展に利用者がホームで作った作品を出品させてもらったり、ホームで出る使用済み牛乳パックを地域の廃品回収に出すなど十分に地域に溶け込んでいる。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「安心な老後、安心な介護、安心な環境」を総合方針として示している。ホーム独自の具体理念として「利用者のこれまでの生活環境を理解するとともに地域の方たちと共に尊厳ある日々を送ってもらうこと」を掲げた。パンフレットやホーム便りには記載されていないが具体的にかみ砕いたものになっていて、職員間で確認し共有している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を共用の居間に掲示して職員間で共有し、実践と理念が乖離することがないように振り替えるようにしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	3ヶ月毎の発行の「ホーム便り」を作成し、地域に配布している。また、公民館の作品展に利用者がホームで作った作品を出品させてもらったり、ホームで出る使用済み牛乳パックを地域の廃品回収に出したりと十分地域に溶け込んでいる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価の改善計画は主任、副主任を中心に職員全員が参加する形で取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議のメンバーは家族、職員の他、市役所、地域包括支援センター、民生委員、自治会長、苦情担当者である。自分たちが協力できることを教えて欲しいと非常に協力的である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当窓口には運営推進会議の進め方や地域密着型サービスの取り組み方など具体的な相談をし、アドバイスを受けていて、気楽に相談できる関係ができています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月家族に請求書とともに必要に応じて利用者の生活の様子を報告している。また、一人ひとりのアルバムには様々な場面の利用者の写真が収められており家族の訪問時には暮らしぶりを伝えるものとして活用している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からは直接、要望や意見をもらっている。苦情はまだないが第三者苦情窓口についても入居利用約款でも伝えてある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は、この1年常勤者が非常勤に変更したのみである。職員は併設のショートステイ、デイサービスに普段から行き来している。そのため利用者はホームから異動しても馴染みの職員と接しているため異動による混乱がほとんどない状態で過ごすことができる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	教育の基本はホーム現場での教育で行っている。外部研修は必要に応じての参加としている。研修に参加したときは他の職員に報告する形で研修内容の共有を図っている。しかし、外部研修を受ける職員が限られ、計画的に行われているとは言えない。	○	年3回の継続研修については、年間計画を立て、職員研修を計画的に行うことが望まれる。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	岐阜県グループホーム協議会に参加して、同業者間の交流を図っている。職員同士の交流はないが、その他管理者は他のホームの管理者との交流を通して情報やアドバイスを得る努力をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用の前には、併設のショートステイを3～7日間利用してもらい、ホームの雰囲気に馴染んでからサービス利用に繋がるようにしている。このとき、デイの利用もあり、ホームの利用者、職員とも馴染みになってのスムーズな利用ができています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者が職員とともに寄り添う関係が出来ている。利用者が職員に対して「肩凝っているんじゃない」「一人で片付けるのは大変だから手伝うわ」と言葉をかけ、昼食時の手伝いをごく自然に行ったり洗濯物を片付けたりしている。味付けや盛り付けのアドバイスを受ける関係の方もいる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が、日々の介護の中で把握した利用者の思いや希望を介護記録の中に積み重ねている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	管理者がケアマネージャーであり、職員、家族に相談し、家族の同意をもらって介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヵ月毎の見直しをしている。月に1度のケアカンファレンスの際、職員で話し合い、利用者の状況の変化があったときは、随時介護計画の見直ししている。家族に見てもらいサインをしてもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	同じ建物の中にサービスやショートステイがあり、午前中の足湯の開放やテラスでの日光浴・レクリエーションなど、互いに交流できる場がある。今後墓参りの付き添いなど検討の予定である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医に2週間に1度居室まで往診してもらえる。個人のかかりつけ医の受診は家族の同行のほか、30分500円で職員が同行している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期の利用者がいたので、その利用者個人に対しての話し合いを行ったりマニュアルを作成したが、最終的には病院に転院して、終末期の介護に対する経験はまだない。利用時に希望を聞いたり終末期についての意見等は聞いていない。	○	利用者の高齢化に伴い、重度化は予想される事態なので、早い段階から、利用者や家族の終末期や重度化した際についての考えや希望を聞き、ある程度の対応方針をまとめ、文書にしておくことが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の利用者に対する接し方は温かく、利用者の言葉に耳を傾け優しく会話している。プライバシーへの配慮も十分である。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員はゆったりした態度で利用者へ接している。また朝利用者に接する際、挨拶や体調などを聞くと共に、その日したいことの希望を聞き、買い物や散歩、喫茶店に行く等の希望があれば出来るだけ対応する努力をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝晩は配食サービスを利用し、昼は利用者と共に食事作りをしている。利用者の食べたいものの希望を聞き、共に買い物に出かけている。食事づくり、配膳など利用者が積極的に生き生きと準備片付け等手伝っている。1人の職員が検食の形で一緒に食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1週間に3回午後に入浴をしているが、希望に応じて対応している。また、10時のラジオ体操の後、足湯に入ることが出来る。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	写真を撮ることが好きな利用者の撮影した写真をホーム便りに掲載したり、絵を描くのが好きな方の作品コーナーを作っている。また一緒に昼食づくりを始めてから、料理の準備を一緒にしてくれたり、皮むきをしたいと職員に言いに来たり、広告の紙でゴミ箱づくりをしてくれる利用者が増えた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	花見などのイベント的な外出が月に1度計画されているが、その他に一緒に買い物に出かけたりして、平等に行けるようチェックしながら、外出支援している。また買い物の際、喫茶店に行ったり等、気分転換も心がけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	建物の入り口はオープンになっている。ショートステイ、デイサービスの利用者の出入りがあり、時間帯でホームの入り口にやむなく鍵をかけている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防用の設備点検がきちんとなされている。また、災害対策マニュアルの作成がされている。9月に防火訓練が予定されているが、内容はまだ未定である。	○	年2回ずつの防火訓練・消防訓練を地域を巻き込んだものにして充実したものになることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量・1日の水分量はチェックされており、適切に摂取できるよう支援されている。水分については1日5～6回の補給が心がけられている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には季節の花が飾られ、天井が高く明るい清潔な居心地良い空間となっている。廊下は広く、利用者の作品や写真が飾られている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具や使いやすい収納箱などが置かれ、利用者それぞれの落ち着ける居室となっている。壁にはコルクのボードがかけられ、自分の作品や家族の写真等が飾られている。		